



1 開催趣旨

ウィーン美術史美術館は「ヨーロッパ最大の貴族」ハプスブルク家の 400 年にわたる遺産をもとに 1891 年に開館した美術館です。そのコレクションは、ハプスブルク家と関わりの深かったオランダ・フランドル地方、スペインをはじめとしてヨーロッパ各地から収集され、世界屈指の質・量を誇ります。

本展覧会ではヨーロッパの静物画を紹介するために同美術館のコレクションから 75 点の作品を選定しました。静物画の黄金期である 17 世紀の作品を中心に、多様な種類・地域・時代の静物画、そして静物が重要な役割を果たしている風俗画や肖像画を展示します。ヤン・ブリューゲル（父）の花、コルネリス・デ・ヘームの食卓、バスケニスの楽器・・・美術の歴史に残る静物画の名手たちに出会えます。また、ヤン・ステーンのにぎやかな風俗画における雑多な家庭風景や、物の質感を表現するヘーラルト・ダウの超絶技巧をはじめとして、様々な絵画の中で静物の放つ魅力を堪能していただけます。知る人ぞ知る名作・ペレダの《静物：虚栄（ヴァニタス）》も見逃せません。

さらに、あまりにも有名なベラスケスの《薔薇色の衣裳のマルガリータ王女》を日本初公開いたします。ハプスブルク家の華麗な歴史を彩った王女の可憐な姿をご覧頂く希少な機会です。

2 会 期 2009 年 1 月 6 日（火）～3 月 29 日（日）

月曜日休館（ただし 1 月 12 日（祝日）は開館し、翌 13 日（火）に休館します）

72 日間

（参考）本展巡回先

2008 年 7 月 2 日～9 月 15 日 国立新美術館

2008 年 10 月 7 日～12 月 14 日 宮城県美術館

2009 年 4 月 11 日～6 月 14 日 青森県立美術館

3 開館時間 午前 10 時 - 午後 6 時（毎週金・土曜日は午後 8 時まで）

入場は閉館の 30 分前まで

4 会 場 兵庫県立美術館 企画展示室

〒651 - 0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1 - 1 - 1 電話 078 - 262 - 0901（代）

5 観 覧 料 一般 1300（1100）円、大・高 900（700）円、中・小 500（300）円

（ ）内は前売りおよび 20 名以上の団体割引料金

兵庫県内に在住・在学中・小生はココロンカードの提示により無料

障害のある方とその介護の方 1 名、兵庫県内に在住の 65 歳以上の方は当日料金の半額

- 6 主 催 兵庫県立美術館、産経新聞社、神戸新聞社
- 7 後 援 オーストリア大使館、兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、財団法人伊藤文化財団、サンケイスポーツ、夕刊フジ、サンケイリビング新聞社、関西テレビ放送、サンテレビジョン、ラジオ大阪、ラジオ関西、FM802、Kiss-FM KOBE
- 8 協 力 オーストリア航空、Lufthansa Cargo AG、ホテルオークラ神戸
- 9 協 賛 日本写真印刷
- 10 出品点数 75 点
- 11 章 構成 第1章 市場・台所・虚栄（ヴァニタス）の静物（13点）
第2章 狩猟・果実・豪華な品々・花の静物（30点）
第3章 宗教・季節・自然と静物（12点）
第4章 風俗・肖像と静物（20点）

12 関連事業

（1）記念コンサート「ウィーン古典派の軌跡」

出演：NPO 法人 室内合奏団 "THE STRINGS"

1月24日（土）14:00～15:30 アトリエ1にて

入場無料（展覧会チケットの半券が必要） 定員 150 名

（2）「展覧会記念シンポジウム・西洋の静物画」

パネリスト：中村俊春・宮下規久朗・諸星妙・吉田朋子

1月31日（土）13:00～17:00 ミュージアム・ホールにて

入場無料（展覧会チケットの半券が必要） 定員 250 名

（3）記念講演会「ベラスケスのマルガリータ王女 - 政略結婚に^{はかなく}散った生涯」

講師：中野京子（ドイツ文学・西洋文化史 著書：『怖い絵』ほか）

2月8日（日）14:00～15:30 ミュージアム・ホールにて

入場無料（展覧会チケットの半券が必要） 定員 250 名

（4）レクチャー「花を愛する～近世のヨーロッパと日本～」

講師：鈴木武（県立人と自然の博物館研究員）

2月15日（日）14:00～15:00 レクチャールームにて

入場無料（展覧会チケットの半券が必要） 定員 100 名

（5）こどものイベント「静物画の謎?!」

2月21日（土）13:30～15:30

2月22日（日）10:30～12:30

対象:兵庫県内在住・在学の小学3年生～中学3年生
申し込み制、受付開始日2月7日(土)
詳しくは078-262-0908(こどものイベント係)まで

(6)「古楽器製作者と探る静物画の秘密」

出演:平山照秋(古楽器製作者)
3月8日(日)14:00～15:30 アトリエ1にて
入場無料(展覧会チケットの半券が必要) 定員150名
共催:「兵庫県立美術館芸術の館」友の会

(7)記念コンサート「マルガリータの故郷・スペインの風」

出演:鈴木一郎(ギター、イサベラ・ラ・カトリカ文化勲章(スペイン)受勲)
3月21日(土)14:00～15:30 ギャラリーにて
入場無料(展覧会チケットの半券が必要) 定員250名
共催:神戸日西協会

(8)当館学芸員による解説会

1月10日(土)、2月7日(土)、2月28日(土)、3月7日(土)
各日とも16:30～(約45分) レクチャールームにて
聴講無料 定員100名

(9)おやこ解説会「静物画入門」

1月10日(土)
2月7日(土)
各日とも13:30～(約30分) レクチャールームにて
聴講無料 定員100名

(10)ミュージアム・ボランティアによる見どころ案内

会期中の毎週日曜日、11:00～(約15分) レクチャールームにて
聴講無料 定員100名

13 お問い合わせ先 兵庫県立美術館 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

ホームページ <http://www.artm.pref.hyogo.jp>

*取材・写真提供に関すること:営業広報グループ

TEL:078-262-0905(直) FAX:078-262-0903

*展覧会の内容に関すること:企画担当学芸員 吉田朋子、岡本弘毅

TEL:078-262-0909(直) FAX:078-262-0913

章構成と主な出品作品

第1章 市場・台所・虚栄（ヴァニタス）の静物（13点）

静物画の起源の一つに、春夏秋冬の人々の活動などを描いた絵画があります。ここから静物モチーフが独立していきました。また、「本物そっくり」に描ける油絵という手段が登場したことも静物画の発展には重要な理由になりました。

静物画は、目に見える世界の素晴らしさを伝えてくれます。しかしその背後には、常にこの世のはかなさへの思い（ヴァニタス）が秘められています。本展覧会に出品されるペレダ《静物：虚栄（ヴァニタス）》は「ヴァニタス」を表した絵画の傑作です。



フレデリック・ファン・ファルケンボルフ一世の工房
《花市場（春）》1610年頃



アントニオ・デ・ペレダ
《静物：虚栄（ヴァニタス）》1634年ごろ

第2章 狩猟・果実・豪華な品々・花の静物（30点）

17世紀になると、静物画はまさに黄金期を迎え、オランダ・フランドルを中心にヨーロッパ各地で様々な種類の作品が制作されました。狩猟の獲物やぜいたくな食卓、貿易によってもたらされた珍しい物品、貴重な楽器、そして美しい花々。名手たちの競演がご覧いただけます。



ヤン・ブリューゲル（父）《青い花瓶の花束》1608年頃



コルネリス・デ・ヘーム《朝食図》1660-69年頃

第3章 宗教・季節・自然と静物（12点）

宗教的な教え、季節や自然の豊かさを表現した多様な絵画を紹介します。人物たちとともに、生き生きと描かれた静物が作品の寓意的な意味を表現しています。また、宗教的な静物画は敬虔なカトリックであったハプスブルク家のコレクションならではの出品といえましょう。



ヤン・アントン・ファン・デル・パーレン
《御公現の寓意》1650/59年頃



レアンドロ・ダ・ポンテ 通称 レアンドロ・パッサーノ
《6月》1580年代

第4章 風俗・肖像と静物（20点）

ウィーン美術史美術館の誇る風俗画・歴史画の名品群の中でも静物は大活躍しています。たとえば、ヤン・ステーンのにぎやかな家庭は細部までご覧になってこそ、その面白さをご堪能いただけます。

肖像画では静物は人物の性格を引き立たせます。マルガリータ王女の可憐さを表現する傍らの花。ここでベラスケスが見せる大胆な筆遣いも見どころのひとつです。



ディエゴ・ベラスケス
《薔薇色の衣裳のマルガリータ王女》1653/54年頃



ヤン・ステーン《逆さまの世界》1663年

上記図版は、媒体掲載可能です。掲載される際には、作者名、作品名、制作年、および以下のクレジットを必ず記載してください。

©Kunsthistorisches Museum Wien, Gemäldegalerie, Vienna